

キューバ国会国際関係委員会の声明

出所：グランマ

2023年12月20日10時12分26秒

キューバ共和国人民権力議会議員は、パレスチナ人民に対して行われているジェノサイドに憤りを表明する。これは、外交と現在の国際秩序が、21世紀におけるこのような蛮行を防ぐことに失敗していることを証明するものである。

私たちは、去る10月7日以来イスラエルが行っている無差別爆撃の結果、ガザ地区で数千人のパレスチナ人が殺害され、その70%以上が子供と女性であることを非難する。現在の状況は、75年にわたるイスラエルによる不法占拠と植民地化の結果であり、パレスチナ領において、パレスチナ人の不可侵の権利を著しく侵害するものである。

私たちは、病院、学校、難民キャンプ、国連施設、モスクなどの民間インフラへの攻撃、また、水、食料、電気、燃料の遮断、ガザ住民への人道援助の封鎖、数十人のメディア関係者の殺害を強く非難する。これらの行為はすべて、国際人道法、国際法、戦争犯罪、人道に対する罪に対する重大な違反である。

私たちは、イスラエル政府の残虐行為を擁護するために、非民主的で時代遅れの拒否権によって国連安全保障理事会の行動を妨害することで、この大量虐殺における米国政府の責任と共犯を最も強い言葉で糾弾する。イスラエルが歴史的に行ってきた行動を無実とすることは、米国政府の支持によって、イスラエルに、何の非難も受けないという、自信を与えるものである。

私たちが代表する国民の名において、私たちは、即時停戦と当事者間の交渉開始を緊急に求めるものである。

私たちは、イスラエル・パレスチナ紛争の包括的で公正かつ永続的な解決策の必要性を改めて表明する。それは、2つの国家の創設を基礎として、パレスチナ人民が自決権を持ち、1967年以前の国境線に基づき、東エルサレムを首都とする独立した主権国家を持つことを認めることである。

ハバナ、2023年12月20日